

受賞者の横顔

釧路混声合唱団

(佐々木春美団長)



団長の佐々木さん

郷土芸術賞に輝く

<上>

ことしの釧路新郷土芸術賞の受賞者が決まった。地元音楽界にあって、四十年にわたる定期公演をはじめ「釧路湿原讃歌」など朝北のきびしい風土に根ざした創作、演奏活動を続ける釧路混声合唱団(団長・佐々木春美さん)。独学ながら地元美術界の中堅として力量を発揮している一水会会員の扇谷章二さん。そして、多年にわたり、くしる蝦夷太鼓の作曲指導をはじめ郷土のために貢献、中央にあっても独創的な作曲活動が評価される飯田三郎さんには初の特別賞が贈られる。二十四日の贈呈式を前に郷土芸術賞に輝くその業績を紹介しよう。

創作合唱曲に意欲

すぐれた幻想詩
「丹頂」の企画

昨年の釧路市芸術祭の主権公演に、第六回定期演奏会を携えて登場した。それは創作合唱曲「日舞」と混声合唱のための幻想詩、「丹頂」のすぐれた企画、そして数年来続けられてきた釧路の合唱曲を創作しようという努力が、高く評価されたともいえる。

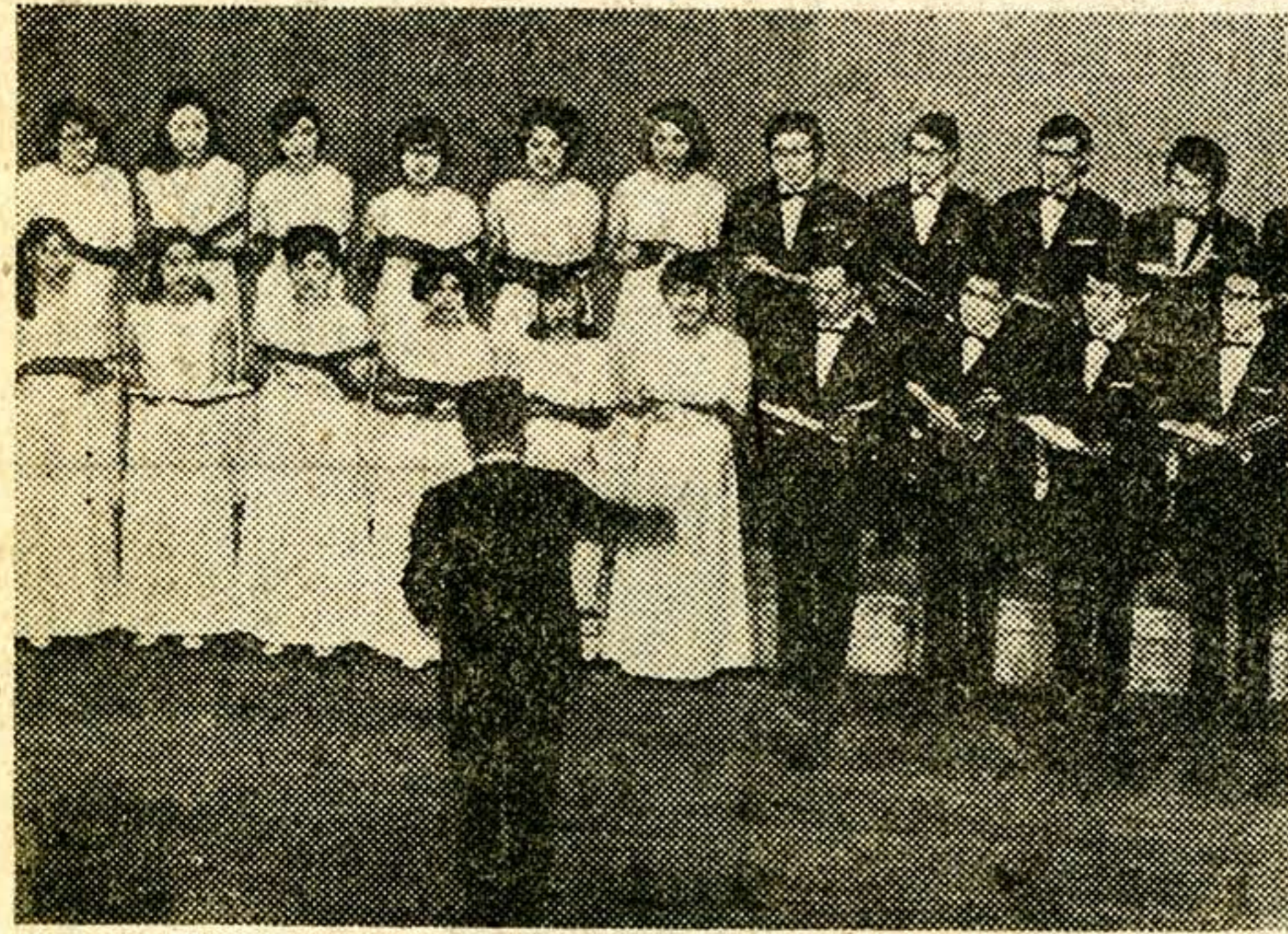
「丹頂」は荒沢勝太郎さんの作詞とができたと思う。そして、各団員にも努めている。団の指揮者である桐林正治さんの体がお互いを理解し、ひとつのものを作り上げることに自信を持ち、日舞の花柳寿登芳さんの振り付けにより、合唱、日舞、邦楽が、郷土に根ざした文化の創造に大きな可能性を提示した作品でもあった。

昭和四十年四月、旧NHK釧路

放送合唱団を母体に発足した。NHKの手を離れ、自主的な演奏活動のできる団体として、生まれ変わったわけだ。翌年秋、第一回の演奏会。さらに星寿次さん作曲の「釧路市民憲章の歌」を皮切りに四十四年の「釧路風物詩」(沖口三郎作詞、星寿次作曲)四十五年の「釧路湿原讃歌」(荒沢勝太郎作詞、桐林正治作曲)そして昨年の「丹頂」と、創作合唱曲に意欲的に取り組んできた。

その間、根室、帯広の合唱団との交流、藤女子大合唱団とのシンポジウムなど、交流活動を通じて、他都市の文化活動の理

んでいるところだ。「夢は、楽譜を出版することですね、自分たちの創作合唱曲だけの楽譜―それを広く流布して、団の軌跡を残しておきたい」と佐々木団長は語りながら「思いがけない受賞です。郷土を愛し、郷土の良さを認識する演奏活動を、私たちの使命としていきたい」と決意を新たにしていた。



郷土に根ざした演奏活動を続ける釧路混声合唱団